

# たまねぎレポート【第433号】



令和5年11月27日

## 社内報

### 阪南青果株式会社

10月の天候は、気象庁の報道によると気温は、北日本でかなり高く、沖縄・奄美で高くなった。降水量は、西日本の日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、西日本の太平洋側で少なかった一方、北・東日本の日本海側で多くなった。日照時間は、全国的に多く、特に北・西日本の日本海側と北・東・西日本の太平洋側でかなり多くなった。北海道では、暖かい空気に覆われて晴れた日が多く、歴代1位の記録的な高温だった。と聞く。11月に入ってから全国的に温暖で

夏日が多く、寒暖の差が大きい。

気象庁の12月～2月の3か月予報によると、平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。東・西日本と沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は、東日本の太平洋側と西日本と沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。降雪量は、北日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%、東日本の日本海側で少ない確率50%、西日本の日本海側で少ない確率60%。月別予報は次の通り。

**12月**、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

**1月**、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

**2月**、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## 野菜の市場概況

建値市場の10月の野菜の販売量は、222,033トン前年比92%(前月比104%)平均単価はkg¥280前年比122%(前月比100%)。市場別にはかな

りのばらつきがあるものの、総じて販売量は前年比減、前月比増。単価は前年比高、前月比並みとなっている。

市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg ¥ 215前年比121%。東京市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg ¥ 308前年比125%。名古屋市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg ¥ 261前年比119%。大阪本場の販売量は前年比95%、平均単価はkg ¥ 283前年比120%。福岡市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥ 217前年比111%となっている。

建値市場(拠点市場)の10月の玉葱の販売量は26,746トンで前年比100%(前月比102%)、平均単価はkg ¥ 116前年比116%(前月比115%)となっている。特に、下旬に北海物の入荷が急減し、市況は急騰している。市場別では、札幌市場の販売量は4,135トン前年比96%、平均単価はkg ¥ 97前年比107%。東京市場の販売量は8,876トン前年比94%、平均単価はkg ¥ 127前年比122%。名古屋市場の販売量は6,740トン前年比101%、平均単価はkg ¥ 108前年比112%。大阪本場の販売量は4,450トン前年比117%、平均単価はkg ¥ 121前年比109%。福岡市場の販売量は2,545トン前年比98%、平均単価はkg ¥ 121前年比122%となっている。

東京都中央卸売市場の10月の野菜の入荷量は、114,706トン前年比91%。全国的な猛暑が続いた後遺症で、前月に続き前年を大きく下回った。(旬別の前年比では上旬が1%減、中旬が17%減、下旬が9%減)。平均価格はkg ¥ 308前年比125%(旬別では上旬がkg ¥ 309前年比120%、中旬が¥ 321前年比130%、下旬が¥ 296前年比125%)、となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、サトイモが前年比104%、ナスとナマシイタケが103%、レタスが101%の4品目。前年比減の品目は、トマトの前年比6

4%を始め、ネギが78%、ダイコンとキャベツが87%。など11品目。価格は前年比全面高で、トマトがkg¥844で前年比159%、ピーマンがkg623で158%、キャベツもkg¥118で158%、ネギがkg¥547で153%、ダイコンがkg¥135で137%。など14品目。前年比安の品目は、サトイモがkg¥329で前年比99%の1品目だけとなっている。

### 東京都中央卸売市場の10月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	114,706	90.6	103.6	308	125.1	99.7
たまねぎ	8,876	93.8	94.7	127	121.9	121.0
キャベツ	15,079	87.2	96.8	118	157.7	131.1
はくさい	13,928	92.1	154.7	108	136.8	117.4
だいこん	10,032	87.2	142.8	135	136.9	88.8
にんじん	6,813	90.8	124.0	217	125.0	96.0
ばれいしょ	6,733	92.8	99.0	128	116.9	95.5
レタス	8,113	100.8	88.7	219	108.2	106.8
ねぎ	4,220	78.4	119.6	547	152.5	105.8
トマト	3,226	63.8	59.4	844	158.6	138.6
きゅうり	5,109	98.9	71.4	438	119.2	126.2
かぼちゃ	2,360	74.0	87.0	247	187.5	138.0
ながいも	477	64.1	78.2	537	179.1	107.4
れんこん	1,148	105.4	107.6	346	114.6	87.2
にんにく	165	90.5	100.6	1014	110.1	105.1

## 玉葱の概況

### 需要(市場)の動き

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の10月の玉葱の販売量は8,876トン前年比94%(前

月比95%)主力は北海物で、北海物の販売量は8,589トン前年比93%、占有率は97%で前年比1ポイントダウン。中國物は225トン前年比142%、占有率は3%で前年比1ポイントアップ。兵庫物は49トン前年比180%、占有率1%。総平均単価はkg ¥127前年比122%(前月比121%)。産地別では、北海物はkg ¥127前年比123%。中國物はkg ¥118前年比85%。兵庫物はkg ¥180前年比82%。となっている。

11月に入り、入荷は前年比で上旬が75%、中旬が78%と減少したが、高値疲れか？ 末端の売行きは今ひとつで、玉ねぎに対する関心が希薄傾向となった。末端の小売店等では他の野菜が潤沢な出回りとなったことで、商材が多くなり玉葱に対する関心が薄れる傾向となったが、この先の入荷減を考えると値下げ販売も出来ず、様子見の販売となった。昨今も売れ行きは今ひとつだが産地の強気に押されて、下値切り上げに努めている。高値を反映して、量販店の注文はL中心に移行している。来月は年末需要期を控え、L大、Lの販売値を¥4,200~4,000に勉売したいと志向している。佐賀物はJA唐津の冬採り玉葱で、クリスマスに向けて週2回各300ケース程度の販売を予定している。

11月1日~20日の玉葱の販売量は4,806トン前年比76%(前月比81%)、平均単価はkg ¥185前年比181%(前月比157%)。産地別の販売量と平均単価は北海物が4,511トン前年比73%、平均単価はkg ¥189前年比188%。中國物は257トン前年比257%、平均単価はkg ¥121前年比91%。兵庫物は23トン前年比144%、平均単価はkg ¥197前年比87%。となっている。前年比で北海物が高く、他は安くなっている。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の10月の玉葱販売量は6,740トン前年比101%

(前月比102%)で前年比、前月比ともやや増となっている。主力は北海物で数量は6,568トン前年比99%、占有率は97%で前年比2ポイントダウン。兵庫物は122トン前年比1,113%、占有率は2%前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg¥108前年比113%(前月比108%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥108前年比113%。兵庫物はkg¥91前年比36%となっている。

11月に入って、北海物の入荷は減少傾向だが、荷動きは鈍化している。急な値上がりで高値敬遠か高値疲れか？ お客が付いて来れない環境で、入荷減ながら売れ残り在庫が増える傾向にある。昨今では、入荷が少なく相場は保合を維持しているものの、売れ行きが鈍い。他の野菜が生育回復で順調な回りで、値下り傾向が続いている状況にあり、玉葱の値上げ販売は厳しい環境にある。此の先12月は年末需要期を控え、野菜も商材が増えるが、玉葱の入荷は減少傾向の予想で、在庫調整をしながら損のない販売を心掛けたい。

### **大阪本場**

大阪市中心卸売市場本場の10月の玉葱の販売量は4,450トン前年比117%(前月比114%)で前年比、前月比とも大幅増となっている。産地別の販売量は、北海物が3,873トン前年比114%、占有率87%前年比2ポイントダウン。兵庫物は547トン前年比137%、占有率12%で前年比1ポイントアップ。産地別の平均単価は、北海物はkg¥116前年比121%。兵庫物はkg¥154前年比66%となっている。

11月に入って、兵庫の冷蔵物は品質劣化の銘柄が多くなったものの、相場は落ち着いている。唯、上値が少なく下値が多い取引になっている。北海物は急な高値となったことで、積極的な売り込みが出来ず、荷動きは緩慢で上値が少なく仲値から下値が多くなった。小売店の売値も値上げが進んだが、荷動きは今ひとつ様子眺めの動きとなった。他の主要野菜が全面安の動きとなり、

仲卸の関心は、それらの品目に向いている。昨今の市場では、兵庫の冷蔵物はこだわり筋の注文で順調に捌けているが、北海物は高値のため荷動きが今ひとつである。此処に来て商系物が増加傾向にあり、常連銘柄以外は価格を抑え、量販店のスポット販売向けに捌いている。12月の年末需要を迎え月後半には多少の値上がりを予想している。

11月1日～20日の玉葱の販売量は2,401トン前年比96%、前月比81% 平均単価はkg¥169前年比155%、前月比148%。産地別の販売量と平均単価は、北海物が2,047トン前年比92%、平均単価はkg¥166前年比175%。兵庫物は340トン前年比122%、平均単価はkg¥187前年比85%。となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の10月の玉葱販売量は、2,545トン前年比98%(前月比103%)で、前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は2,317トン前年比95%、占有率91%前年比3ポイントダウン。中國物は163トン前年比151%、占有率6%前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg¥121前年比122%(前月比112%)で前年比、前月比とも高くなっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥120前年比124%。中國物はkg¥98前年比83%。となっている。

11月に入ってから、北海物の入荷は減少傾向であったが、売れ行きは依然として変わらず、一部高値はあるものの、殆どが仲値から下値となっている。販売環境は厳しいが数量的には品薄であった。市場内は多少落ち着いたものの、何時ヒートアップするか？ 懸念される状態であった。昨今も入荷は日量50～70トンの少量だが、荷動きが鈍いために、在庫が増える状態である。この先12月は年末需要期を控えて、需給はタイトになると予想されるので、販売対応を

考えている。

11月1日～20日の玉葱の販売量は1,172トン前年比74%(前月比76%)で前年比、前月比とも大幅減となっている。平均単価はkg ¥163前年比157%(前月比143%)で前年比、前月比とも大幅高となっている。

### 11月25日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

**【札幌市場】** 販売量154トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥4,000～3,500、 L大 ¥4,000～3,500、 L ¥4,000～3,500、  
M ¥3,300～3,000。

**【太田市場】** 販売量175トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥4,200～4,000、 L大 ¥4,000～3,800、 L ¥4,000～3,800、  
M ¥3,500～3,300。

佐 賀 5kg 冬採り2L ¥1,400、 L ¥1,800～1,600、 M ¥1,700～1,500、  
S ¥1,200。

**【名古屋北部市場】** 販売量57トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥4,000～3,800、 L大 ¥4,000～3,800、 L ¥4,000～3,800、  
M ¥3,300～3,200。

**【大阪本場】** 販売量159トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥3,900～3,800、 L大 ¥4,000～3,800、 L ¥4,000～3,600、  
M ¥3,300～3,200。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,900～1,800、 L ¥2,200～2,000、 M ¥1,900～1,800。



**【福岡市場】 販売量86トン 保合**

北 海 20kgDB2L ¥ 5,000~4,500、 L大 ¥ 5,000~4,500、 L ¥ 5,000~4,500、  
M ¥ 4,000~3,50

**供給(産地)の動き**

12月は、兵庫の冷蔵物の出荷も峠を越し、北海物の寡占化が更に強まる。昨今の市況高で輸入物に関心が向かっているが、大量の輸入は出来そうにない。昨今、主力の北海物の出回り量は、前年比80%前後に落ち込んでいる。8、9月の早生系が品質不良で前進出荷をしたことで、在庫減となっているのか、先高期待で後ずれしているのか、定かでないが、倉入れ作業が終われば判明する。いずれにしても、12月の需給はタイトになる。

**北海道産地**

貯蔵物の倉入れも峠を越し、倉入れが終了すれば、在庫量が確定されるが、産地関係者の多くは先高を期待している。現在の出荷はオホーツク222が主力だが、順次中晩生の北もみじ2000に移行する。道東産地では北もみじの球流れはL大の比率が60%前後になる地区もあると言う。10月までの出荷では、前年比でJA系が91.4%、商系が81.1%、計90.4%となっており、JAの出荷が前進化し、商系の出荷が後ずれしている。産地関係者の多くは本年の出回り量は前年比85%前後と見ている。この先、中晩生の商品化率に依り、多少の増減があると予想されるが、いずれにしても需給はタイトになる。

**府県産地**

府県産の冷蔵物の在庫は前年を多少上回るものの、市況に影響するほどの量ではない。極早生の先陣出荷となる静岡物は、温暖な気候下で順調な生育

が続いている。

長崎、佐賀については、極早生のスーパーアップ等に高温と少雨の影響で苗立ちの悪い苗床も見受けられたが、極早生以外は順調で既に定植が終了している。極早生の作付けは前年比やや減となるが、露地早生は増加傾向で、生育は総じてやや前進化傾向である。

兵庫(淡路島)の冷蔵物の出荷は前進化している。商品化率は荷主に依りかなりの差があるが、総じては91%程度で平年よりやや低い。次シーズンの早生系の定植は前進化傾向だが、中晩生は降雨多く圃場の乾燥が遅れ、苗伸び順調で老化苗になると懸念されている。

### 輸入の動き

10月の輸入の速報値は20,703トン前年比105%。中国が主力で占有率は99%を占めている。国別の輸入量と価格は中国が20,554トン前年比104%。価格は20kg・C&F・剥き玉\$7.20、皮付き6.40。アメリカが146トン前年比298%、価格は50kg・C&F・Lサイズ\$14.75、SLサイズ\$15.50。となっている。

### 12月の市況見通し

11月市況は、予想外の高値となったことで、荷動きが鈍化した。12月は北海物の出回り量が11月以上に減少すると予想されているが、11月の高値疲れで需要は減退している。市況水準は既に頂点近くに達しており、11月以上の高値は北海物の出回り量が更なる減少となる時期になる。現状の高値を反映して、年明けの輸入や新物は前年比で多少の増加となる動きにある。12月市況は、保合か強保合で、L大・L¥4,300~3,800。それ以上の高値はホクレンの出荷調整による。(笹野敏和記)